

別記第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和8年3月13日

ラ ボ 名 探究を探究する会(2期)
代表者所属名 府立木津高等学校
代表者職・氏名 教諭 ・ 東 晃司

京都府立学校授業力等向上ラボ支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 ラボ名

探究を探究する会(2期)

2 研究テーマ

生徒の主体性を伸ばす探究活動を目指して
～探究活動のカリキュラム検証・教員集団の形成に向けて～

3 研究の目的

- ① 第1期に開発したカリキュラムの検証と評価の検討
(持続可能な総探の運営と、評価に関する研究)
- ② 学校を超えた授業実践に関する交流、教員集団(コミュニティ)づくり
(探究活動に関連した教員研修の実施と効果の記録)

4 研究の成果と課題

別に作成した報告書に加え、下記のとおりである。

3月3日(火)、府立南陽高校にて、“探究を探究するCafe”と題した勉強会を実施した。構成は、

- ①木津高校の実践報告および話題提供・協議
- ②南陽高校の実践報告および話題提供・協議
- ③話題提供および協議

の3つで実施した。

勉強会の成果として、若手教員やラボメンバー以外にも参加があり、視察等での情報共有、「探究」をキーワードに交流することができた。

研究の全体の課題として、日々「探究」が深化し、次期学習指導要領の議論がされている中で、探究活動(総探)や探究的な取組(各教科)の研究を継続する必要があるとの考えに至った。

そのため、本ラボを起点とした活動を継続、拡大し、教員同士を繋ぐ機会を作ることが必要だと考える。実践交流や課題の共有を行うことで各学校の実践や運営の改善に繋がったり、他校の実践事例や文部科学省をはじめとする情報を収集し広めたりするような教員集団づくりが必要だと考える。

探究を探究するCafe
・2026.3.3[火]・

「探究」に取り組んでいる仲間と語りませんか?」

このCafeでは、「探究活動・探究的な取り組み」を日々実践している・実践しようとする先生たちを繋げる会です。
事例から解決策を考えたり、参加者同士で日々の実践を交流したりしながら、明日の「探究活動・探究的な取り組み」に向けて一緒に考えましょう。

プログラム

- 事例共有と協議
 - ・木津高校の探究紹介
 - ・南陽高校の探究紹介
- 参加者交流
 - テーマ:「日々の“探究”を共有しましょう!」

運営

京都府立南陽高等学校 化学科 探究ラボ (探究を探究する会)

京都府立木津高等学校 東見野(ファシリテーター)

京都市立南陽高等学校 山中 健太

京都府立南陽高等学校 橋田 元弘

【日時】3月3日(火曜日)午後1時30分～午後3時
(受付は午後1時15分より)

【場所】京都府立南陽高等学校 化学講義室(C棟1階)

【対象】“探究”に関わっている方、興味のある方

【参加費】無料

【申し込み】<https://forms.office.com/r/GDaZXCYhdb>
(上記URLまたは右記QRコードからお申し込みください)



5 研究成果の波及方法

別に作成した報告書等をもとに、継続してカリキュラムの運用実践と検証を行う。また、本ラボの活動で繋がった教員との交流を継続し、今後も勉強会を実施することで、生徒が中心となる探究活動・探究的な学びの深化に繋げる。

6 研究（活動）実績*

年月	研究（活動）内容（具体的に記載）	活動場所
通年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践およびTeamsによる情報共有 ・成果・実践の資料化 	オンライン 各会場
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・顔合わせと研究テーマの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・府立南陽高校
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> ・府立南陽高校
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・先進校視察 ・情報収集，セミナー参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・麗澤瑞浪中学校・高等学校 ・花園中学高等学校
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・先進校視察 	<ul style="list-style-type: none"> ・名城大学附属高等学校 ・名古屋経済大学市邨高等学校
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集，セミナー参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスプラザ京都 ・京都教育大学附属高等学校
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会(“探究を探究するCafe”) ・情報収集，セミナー参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・府立南陽高等学校 ・清教学園中・高等学校 ・京都先端科学大学 太秦キャンパス

7 予算執行状況

- (1) 旅費・研究会等参加費は、旅費等執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究（できるだけ具体的に）

<p>テーマ</p>	<p>「探究」と「探究的な学び」にむけた指導および伴走のあり方に関する研究</p>																				
<p>育てたい資質能力</p>	<p>総合の評価は，“目標や内容を各学校が設定する”とある。そのため“育てたい資質能力”そのものを，各学校の生徒の実態や教育目標をもとに設定し，実践を通して検証を行う。</p>																				
<p>実践又は研究の 具体的内容</p>	<p>令和6年度および令和7年度の2年間の研究から，カリキュラムの型は，運用可能な形にまで到達している。それと同時に生徒の実態や学校教育目標，社会の変容に対応するために，常にアップデートの必要があることも確認できた。さらに，総合的な探究の時間のみで「探究」をするのではなく，各教科においても「探究的な学び」を推進し，相互に作用させる必要があるとも，視察等で確認できた。</p> <p>そのため，次年度以降は「探究」と「探究的な学び」にむけた指導および伴走のあり方について研究を深める。</p> <p>研究手法として</p> <p>① 実践を通じた「探究」と「探究的な学び」に関する検証 ② 実践交流や課題の共有による各学校のカリキュラムや運営の検討と改善</p> <p>が挙げられる。①では下図のパターン別に授業実践を整理し，改善，検証を行う。②では本年度までのラボの繋がりを拡大しつつ，視察等の情報を共有する場をつくり，紀要等の作成を通じて，探究の指導・伴走のあり方を模索する。</p> <p>“探究”に取り組んでいる先生方， ぜひ一緒に探究を探究しませんか？</p> <p>教科で取り組んでいる方，一人で頑張っている方，既にいろいろな実践をしている方，実践していないけど探究に興味のある方などと取り組めたらと考えます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 総合においては，高校段階で自己の在り方生き方に関わるパターン4を自律的に進めていくことができるようになることが目指され，小中学校段階においては，発達の段階や子供の姿態も踏まえつつ，パターン4を適切に取り入れることを明確化してはどうか。 ※ いずれのパターンにおいても，教師の適切な指導性の発揮が必要</p> <p>(2) パターン4であり，「① 課題が自己の興味・関心や問題意識に基づく」「② 手続きが試行錯誤を伴う」「③ 成果として新たな価値の創造を目指すものを「探究」として用語を整理してはどうか。</p> <p>(3) パターン3やパターン2が外形的には「探究的な学び」として想定されることとした上で，各教科の学習において，いわゆるパフォーマンス課題を含む探究的な要素を持つ活動を充実し，主体的・対話的で深い学びを通じて各教科の資質・能力を育成する観点から「探究的」に学ぶとはどうか。</p> </div> <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>① 課題</th> <th>② 手続き</th> <th>③ 成果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パターン4</td> <td></td> <td></td> <td>探究</td> </tr> <tr> <td>パターン3</td> <td>✓</td> <td></td> <td>探究的な学び (各教科におけるいわゆるパフォーマンス課題等を含む)</td> </tr> <tr> <td>パターン2</td> <td>✓</td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>パターン1</td> <td>✓</td> <td>✓</td> <td>✓</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;"> ※ イメージ中の「V」は，教師からの範囲の情報が与えられているかを表している。 ※ 出典元において，パターン1～4はそれぞれ，「確認のための探究(confirmation inquiry)」，「構造化された探究(structured inquiry)」，「指導された探究(guided inquiry)」，「オープンな探究(open inquiry)」と表されている。 (出典) Banchi & Bell (2008)，白井俊「世界の教育はどの方向に向かっているか」能力・探究・ウエルビーイングをもとに作成 </p> <p style="font-size: x-small; margin-top: 5px;">*令和7年12月26日教育課程部会総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ資料1「総合的な学習・探究の時間に関する目標・内容の構造化等について(前提となる諸論点の整理)」</p>		① 課題	② 手続き	③ 成果	パターン4			探究	パターン3	✓		探究的な学び (各教科におけるいわゆるパフォーマンス課題等を含む)	パターン2	✓	✓		パターン1	✓	✓	✓
	① 課題	② 手続き	③ 成果																		
パターン4			探究																		
パターン3	✓		探究的な学び (各教科におけるいわゆるパフォーマンス課題等を含む)																		
パターン2	✓	✓																			
パターン1	✓	✓	✓																		

※ 紙面が不足する場合は，適宜行を足してください。